

株式会社中北製作所

2021年度環境経営レポート

(対象期間：2021年6月～2022年5月)



エコアクション21[®]
認証番号 0007707



作成日： 2022年 6月 2日

更新日： 2022年 11月 4日

会社概要①

会社名	株式会社中北製作所
代表者	代表取締役社長 宮田彰久
所在地	本社工場 大阪府大東市深野南町1-1 東京営業所 東京都港区浜松町1-27-17 北九州営業所 福岡県北九州市小倉北区浅野2-11-15
創立	1930年5月28日
資本金	11億5千万円
売上高	172億円（第96期）
従業員数	本社454人 東京営業所24人 北九州営業所16人 <small>（派遣社員含む）</small>
事業内容	各種バルブ及び遠隔操作装置の設計・ 製造並びに販売

会社概要②

**環境管理
責任者**

総務部長 林昌宏

担当者

総務課 福島恒太郎

連絡先

TEL 072-871-1331

FAX 072-870-1865

URL

<https://www.nakakita-s.co.jp/>

事業年度

6月～5月

敷地面積

42,900m²

延建築面積

41,000m²



ごあいさつ

我々、中北製作所は人類共通の課題である環境問題と前向きに向き合い、地域との共生を通じながら環境問題の改善に努め、当社の事業に関わる環境負荷の低減に向けた活動を実施し、未来に綺麗で住み良い地球を残すべく、地球環境の保全に貢献します。

環境経営方針

当社は、各種バルブ及び遠隔操作装置の設計・製造並びに販売とそのメンテナンスを主に行う企業として、企業活動の中で環境問題への取り組みが当社の業績を左右する重要な要素ととらえ、省資源・省エネルギーに自主的、積極的に取り組み、経済発展と環境保全の両立を図る社会的責任を認識し、社会に貢献する。

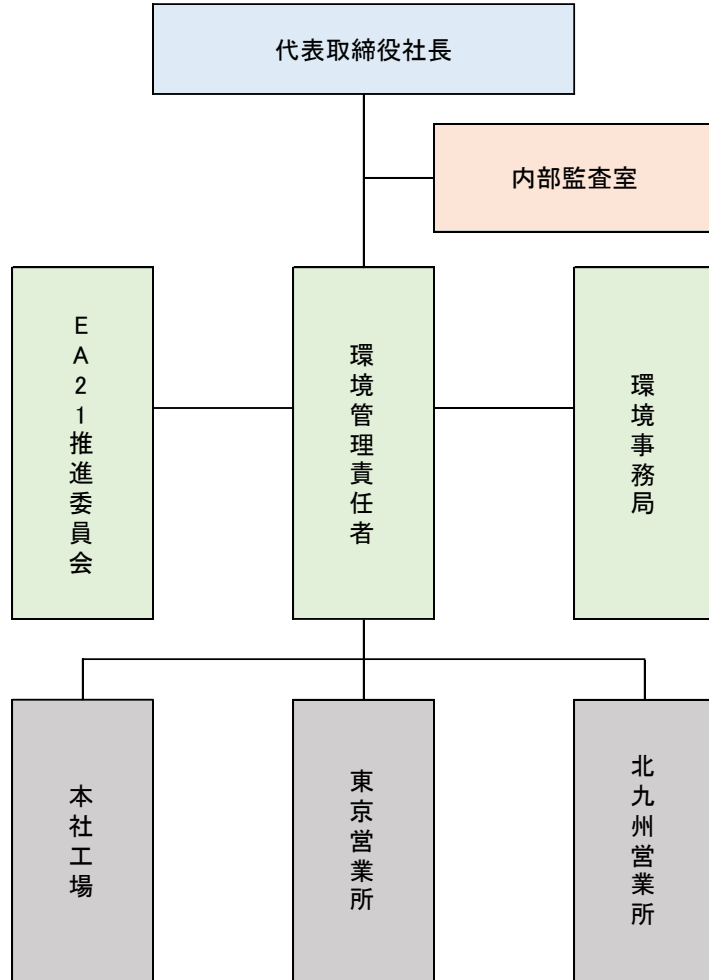
- 1, 関連する法令・規制要求事項ならびに顧客や市場など外部からの要求事項を順守する。
- 2, 環境と品質の複合マネジメントシステムを構築・運用し、その有効性の継続的な改善と環境汚染の予防に努める。
- 3, 重点施策
 - 1) 環境負荷低減の推進
 - ① 二酸化炭素排出量の削減
 - ② 廃棄物排出量の削減
 - ③ 水使用量の削減
 - 2) 化学物質使用量の削減
化学物質（SVHC）については、適切な把握・管理が求められていることから、仕入先からの化学物質含有情報入手に関する連携を密にし、化学物質の適切な把握・管理にも努力する。
 - 3) グリーン購入やグリーン調達
 - 4) 製品への環境配慮
 - 5) 社会、地域と共生
- 4, この環境経営方針は、社内全体に周知すると共に、環境経営レポートを公開する。

制定日：2011年2月4日
改定日：2019年8月28日

代表取締役社長 官田 彰久

対象範囲

対象活動



各種バルブ及び遠隔操作装置の設計・製造並びに販売。
下記に示す中北製作所の各種バルブ及び制御装置に係る
受注、設計、製造、検査、出荷に関連するプロセスに
適用する。

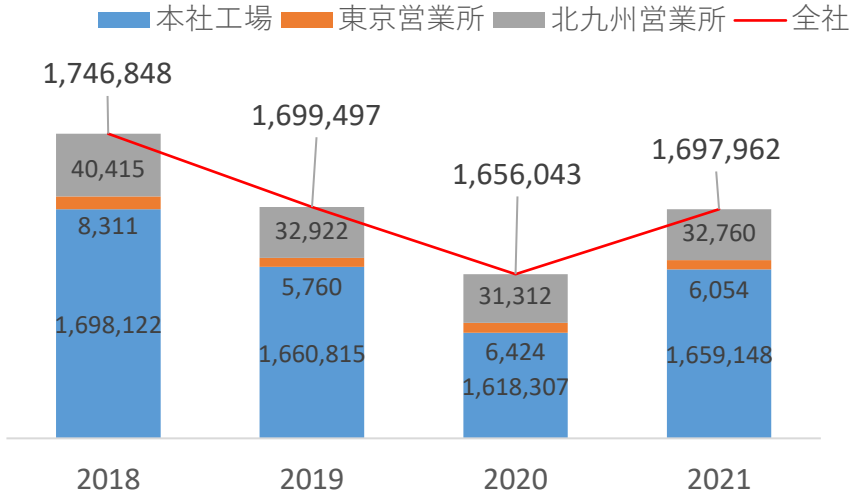
- ①バルブ : 調節弁・調整弁・シリンダ弁・電磁弁・安全弁・電動弁、バタフライ弁・一般弁を含む各種バルブ
- ②計器・計装品 : レベルスイッチ、コントローラ、ツインパワーを含む関連機器
- ③遠隔操作装置 : カーゴバルブ及びバラストバルブ用操作盤、パワーユニット、油圧機器、遠隔液面指示計など
- ④その他の製品 : レデューサ、ストレーナなど関連機器
- ⑤上記①～④に係る部品、ユニット又はそれらの組合せ品
- ⑥上記①～⑤に係る付帯サービス

役割・責任・権限

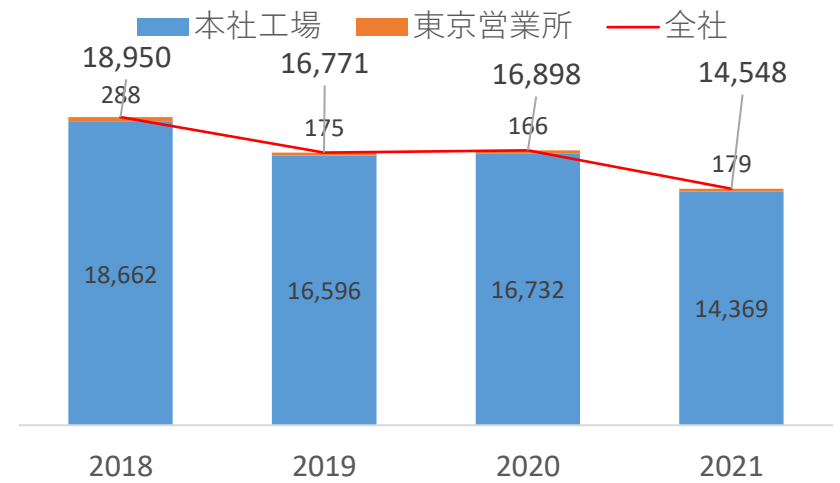
	役割・責任・権限		役割・責任・権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定、見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し・指示を実施 ・環境経営レポートの承認 ・実施体制の構築 	環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・環境活動の取り組み結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
内部監査室	<ul style="list-style-type: none"> ・内部環境監査の実施 ・内部監査計画 ・前回審査のコメント確認 ・各部署環境経営計画の確認 	EA21推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・環境活動内容の検討 ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・環境経営レポートへの活動報告の掲載原稿の提出 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理
所属長	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防措置の実施 	全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開 ・内部環境監査の実施 		

主な環境負荷の実績

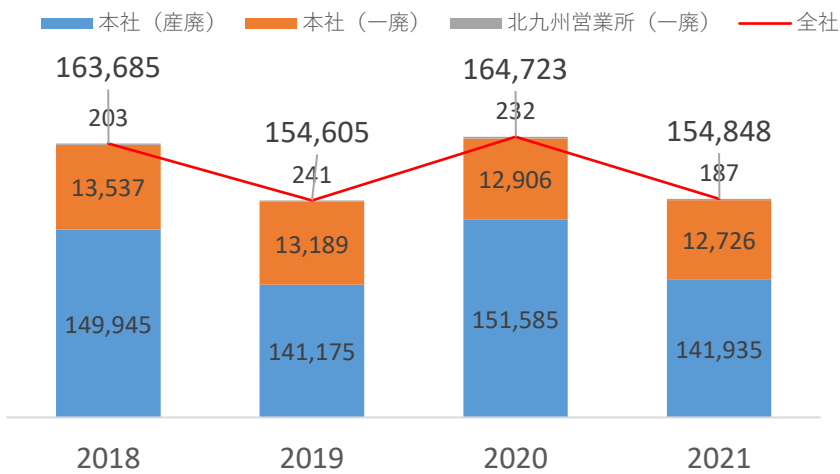
二酸化炭素総排出量(kg-CO₂)



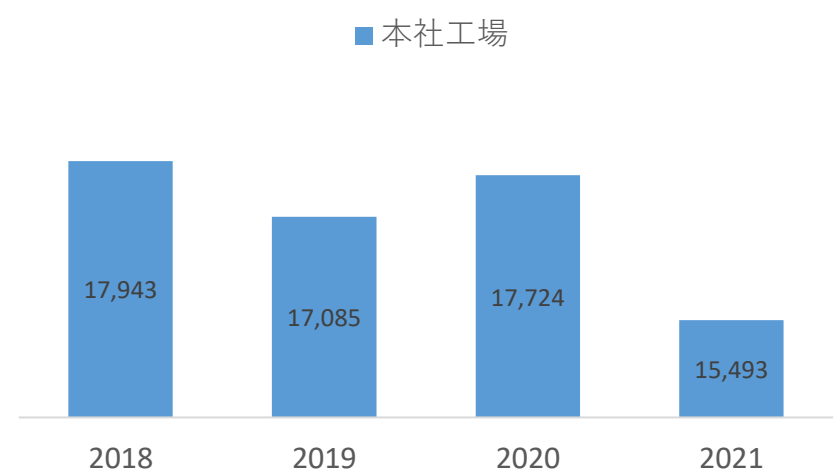
水使用量(m³)



廃棄物排出量(kg)



化学物質使用量(kg)



環境経営目標・実績①

全社

年 度 項 目		基準値	2021年		2022年	2023年
			(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	1,551,323	1,367,037	1,368,410	1,351,038	1,335,526
	基準年比					
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	86,551	83,722	79,578	82,857	81,992
	基準年比					
灯油、L P Gの二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	312,725	312,725	249,974	312,725	312,725
	基準年比					
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	1,950,599	1,763,484	1,697,962	1,746,620	1,730,243
	基準年比					
一般廃棄物の削減 (可燃物を対象) ※再資源量を除く	kg	13,707	13,519	12,913	13,380	13,243
	基準年比					
産業廃棄物の削減	kg	146,351	175,621	141,935	160,986	146,351
	基準年比					
水道水の削減	m ³	21,241	17,661	14,548	17,262	17,050
	基準年比					
化学物質の削減	kg	19,324	17,971	15,493	17,778	17,585
	基準年比					

環境経営目標・実績②

本社工場

年 度 項 目		基準値 (基準年度)	2021年		2022年	2023年
			(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量削減 (排出係数：0.418)	kg-CO2 基準年比	1,530,670 (2017年度)	1,346,990 88%	1,350,815 88%	1,331,683 87%	1,316,377 86%
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年比	58,264 (2017年度)	58,264 100%	58,359 100%	57,681 99%	57,099 98%
灯油、L P Gの二酸化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年比	312,725 (2017年度)	312,725 100%	249,974 80%	312,725 100%	312,725 100%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2 基準年比	1,901,659 (2017年度)	1,717,979 90%	1,659,148 87%	1,702,089 90%	1,686,201 89%
一般廃棄物の削減 (可燃物を対象) ※再資源量を除く	kg 基準年比	13,231 (2017年度)	13,099 99%	12,726 96%	12,966 98%	12,834 97%
産業廃棄物の削減	kg 基準年比	146,351 (2017年度)	175,621 120%	141,665 97%	160,986 110%	146,351 100%
水道水の削減	m ³ 基準年比	20,807 (2017年度)	17,270 83%	14,369 69%	16,854 81%	16,646 80%
化学物質の削減	kg 基準年比	19,324 (2017年度)	17,971 93%	15,493 80%	17,778 92%	17,585 91%
購入資材への環境配慮	グリーン購入比率		30%	27%	31%	32%
製品への環境配慮	製品の小型化・省資源化 自部署の整理整頓による作業の効率化 地域清掃・募金活動の社会貢献 客先の環境情報収集と社内への伝達 顧客向け講習会の開催 社内システムによる効率化 梱包方法の見直し					

環境経営目標・実績③

東京営業所

年 度 項 目		基準値 (基準度)	2021年		2022年	2022年
			(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素 排出量削減（排出 係数：0.462）	kg-CO2 基準年比	8,527 (2017年)	8,527 100%	6,054 71%	8,441 99%	8,356 98%
水道水の削減	m ³ 基準年比	434 (2011年)	391 90%	179 41%	408 94%	404 93%
購入資材への環境 配慮	グリーン購入 比率		83%	87%	84%	85%
製品への環境配慮	納期の取り纏めによる輸送回数の削減 過剰梱包の抑制					

北九州営業所

年 度 項 目		基準値 (基準度)	2021年		2022年	2023年
			(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素 排出量削減（排出 係数：0.463）	kg-CO2 基準年比	12,126 (2018年)	11,520 95%	11,541 95%	10,914 90%	10,793 89%
自動車燃料の二酸 化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年比	28,287 (2018年)	25,458 90%	21,219 75%	25,176 89%	24,893 88%
上記二酸化炭素排 出量合計	kg-CO2 基準年比	40,413 (2018年)	36,978 92%	32,760 81%	36,090 89%	35,686 88%
一般廃棄物の削減 ※再資源量を除く	kg 基準年比	476 (2015年)	420 88%	187 39%	414 87%	409 86%
購入資材への環境 配慮	グリーン購入 比率		33%	78%	34%	35%
製品への環境配慮	メンテナンスによる製品の長寿命化					

環境経営計画と結果及びその評価、次年度の取組内容①

【本社工場】

【結果】 ○：よくできた △：まあまあできた ×：できなかった

環境経営計画		結果	評価、次年度の取組内容
電力による二酸化炭素排出量の削減	数値目標	○	
昼休み等電気不要時の消灯		○	消費電力だけの評価だと目標達成はできているが、エネルギー原単位だと増加しており、多角面からの視点を意識することで、より詳細に評価していきたい。
夜間、休日はPC、プリンタの主電源オフ		○	
生産性向上による電力消費の削減		○	
クールビズ、ウォームビズ励行でエアコンの使用を抑える		○	
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減	数値目標	○	
急発進、急加速をしない		○	緊急事態宣言発出によって使用量が左右されやすく、実績評価が難しい中、目標を達成。こういう状況だからこそ、アイドリングストップや急発進・急加速の禁止等、低燃費運転の地道な推進を継続。
アイドリングストップの励行		○	
社有車の入れ替え時には低燃費・省エネ対応の車を選定する		○	
目的地へ最短距離で走行		○	
一般廃棄物の削減	数値目標	○	
両面、集約、裏面コピーの活用		○	ここ数年削減傾向にあり、従業員の意識の向上が確認できる。分別の行き届いていない部署には直接指導するなど、積極的なアプローチも心掛ける。
使用済み封筒の再利用		○	
マイコップの推奨		○	
ゴミ分別の徹底		○	
産業廃棄物の削減	数値目標	○	
ウエス、軍手の節約		○	全社的な5S活動で廃棄物の増加が懸念されたが、目標大幅達成となる。
通いカゴの推奨		○	
水道水の削減	数値目標	○	
節水の心掛け		○	水漏れ改修により目標大幅達成。

環境経営計画と結果及びその評価、次年度の取組内容②

【本社工場】

【結果】○：よくできた △：まあまあできた ×：できなかった

環境経営計画		結果	評価、次年度の取組内容
化学物質の削減	数値目標	○	
使用済みシンナー再生の推進		○	リスクアセスメント教育など化学物質の教育による意識向上が見られる。今後も継続的にリテラシー教育を行っていく。
化学物質のリスクアセスメントの推進		○	
シンナー等の節約		○	
購入資材への環境配慮（グリーン購入）	数値目標	×	
事務用品のグリーン化		△	事務用品購入手段の変更によりグリーン購入率の評価が困難になる。新たな評価方法を模索中。
環境関連セミナーへの参加		×	
製品への環境配慮	数値目標	—	
職場内の整理整頓による作業の効率化		○	各部署にて環境経営計画書を作成しており、それぞれにおける課題を挙げて環境活動を推進しています。
展示会で環境配慮製品のアピールを行う		○	
製品の小型化・省資源化		△	
社会貢献	数値目標	—	
地域清掃の実施		—	昨年に引き続き野菜募金を実施し、環境団体への寄附を行いました。来期も継続して続けていきます。地域清掃は新型コロナウイルス感染予防のため、自粛中です。
自動販売機募金の実施		○	
野菜募金を環境団体へ寄付		○	

環境経営計画と結果及びその評価、次年度の取組内容③

【東京営業所】

【結果】○：よくできた △：まあまあできた ×：できなかった

環境経営計画		結果	評価、次年度の取組内容
電力による二酸化炭素排出量の削減	数値目標	○	
昼休み及び定時以降、不要箇所の電気を消灯する		○	各エアコンを個別に調整することにより効率的な室温管理をしている。コロナ禍におけるマスク着用や換気により室温管理が難しい中で満足いく結果である。次年度においても、こまめな室温調整、効率的な照明を心掛けたい。
夜間、休日のパソコン、プリンタの主電源のOFF		○	
クールビズ、ウォームビズのより冷暖房の温度設定を抑える		○	
エアコンの風向きを個別ルーバーにて調整し、効率の良い温度管理をする		○	
照明の間引き(照明の効率化)		○	
一般廃棄物の削減	数値目標	—	
打合せや会議資料等は、パソコンやメール回覧の利用等により、ペーパーレス化に取り組む		○	Docuworksによりペーパーレス化が加速し、業務効率も上がった。次年度においても、文房具類の再利用と共に一般廃棄物の削減、業務効率の向上に努めていきたい。
社内LAN、データベース等の利用による文書の電子化に取り組む		○	
使用済み封筒の再利用		○	
両面・集約等の機能を活用したコピーの徹底		○	
水道水の削減	数値目標	○	
手洗い、洗い物において節水を励行する		○	節水意識に関しては課員に浸透しており、こまめな蛇口開閉を心掛けている。次年度においても手洗い時の蛇口の調整を中心に節水を意識していきたい。
購入資材への環境配慮（グリーン購入）	数値目標	○	
グリーン購入を進めるとともに購入金額（母数）の削減に工夫及び努力する。		○	グリーン購入が当然という意識が浸透している。グリーン購入対象外品が稀であり、意識をするようになっている。次年度においてもその意識を持続し、また文房具の再利用をより促進させ、資材購入自体もさらに削減していきたい。
製品・サービスへの環境配慮	数値目標	—	
		○	効率的な出荷業務が徐々に浸透している。結果として、CO2排出削減やコスト削減となっている。また、梱包材の材質やその廃棄量にも配慮し、SDGsを心掛けたい。

環境経営計画と結果及びその評価、次年度を取組内容④

【北九州営業所】

【結果】○：よくできた △：まあまあできた ×：できなかった

環境経営計画		結果	評価、次年度を取組内容
電力による二酸化炭素排出量の削減	数値目標	○	
昼休み等電気不要時の消灯		○	こまめな消灯を心掛けを徹底している。徐々にコロナも収束傾向で出張回数も増えてきていることで在籍者が少ない日もあり、PCの稼働は低下したことで、電力削減できるようにしたい。また、RPAなどPCを活用して残業削減に繋げている。
夜間、休日はPC、プリンタの主電源オフ		○	
クールビズ、ウォームビズ励行でエアコンの使用を抑える		○	
残業削減による電力削減		○	
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減	数値目標	○	
速度制限の厳守		○	左記の項目を課員全員が意識することで燃費向上することで二酸化炭素排出量の削減を目指す。
急発進、急加速や空ふかしの排除		○	
駐停車でのエンジン停止を励行		○	
一般廃棄物の削減	数値目標	○	
両面、集約、裏面コピーの活用		○	従来はFAXはアウトプットしていたが、現在はFAX内でデータを受信し、必要に応じてアウトプットするように変更した。また、可能な限り、PC内で処理をし、不必要なプリントアウトを削減する。
使用済み封筒の再利用		○	
社内LAN、データベースの利用による電子化		○	
ゴミ分別の徹底		○	
購入資材への環境配慮（グリーン購入）	数値目標	○	
グリーン購入比率を高める		○	通期で目標値を達成できている。次年度も継続して削減率を見直し、達成できるよう注力する。
出来るだけまとめて発注し、簡易梱包を選ぶ		○	
製品・サービスへの環境配慮	数値目標	○	
メンテナンスを行い製品の寿命を延ばす		○	客先の定期点検工事の実施有無で大きく左右されるが次年度は達成できるよう注力する。

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無①

【本社工場】

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物 産業廃棄物 廃水処理装置 特管廃棄物
大東市火災予防条例	加熱炉
労働安全衛生法	クレーン ブラスト 電気炉 コンプレッサー 塗装ブース
クレーン等安全規則	簡易リフト
騒音規制法	空気圧縮機 集じん機 他
振動規制法	空気圧縮機 集じん機 他
化学物質排出把握管理促進法	エチルベンゼン トルエン キシレン
大阪府生活環境の保全等に関する条例	クレーン 研磨施設 集じん機 電気炉 溶剤洗浄施設 吹付塗装施設
大気汚染防止法	ボイラー 塗装ブース ショットブラスト
水質汚濁防止法	廃ガス洗浄施設
瀬戸内海環境保全特別措置法	廃水処理施設 廃ガス洗浄施設
公害防止組織法	洗浄工場
フロン排出抑制法	空調 冷蔵庫 旋盤機械 エアドライヤー 冷水機
下水道法	廃ガス洗浄施設 表面処理施設
高圧ガス保安法	圧縮空気製造設備 窒素ガス製造設備
顧客要求事項	客先のグリーン調達情報等

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無②

【東京営業所】

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物
東京都環境基本条例	一般廃棄物
資源有効利用促進法	製品の長期間使用並びに再生資源・再生部品の利用促進
小型家電リサイクル法	電子電気製品
顧客要求事項	客先のグリーン調達情報等

【北九州営業所】

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物
福岡県公害防止等生活環境の保全に関する条例	一般廃棄物
フロン排出抑制法	サーバー冷却機
資源有効利用促進法	製品の長期間使用並びに再生資源・再生部品の利用促進
小型家電リサイクル法	電子電気製品
顧客要求事項	客先のグリーン調達情報等

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、関係当局よりの違反、訴訟等の指摘は、過去3年間ありませんでした。

代表者による全体の評価と見直し・指示

未だ続くコロナ禍で、換気をしたままの空調稼働や、手洗いの励行など環境負荷を増大せざるを得ない状況の中、それぞれの目標を達成し、環境保全に貢献しようとしております。そんな中、web会議やリモートワークなど新たな働き方も色々と芽生え、環境負荷低減に繋がるチャンスも生まれてきています。これからも続くであろうコロナ禍をチャンスに変え、ひたむきに環境活動を押し進めて参ります。

また、当社は将来的に交野市への移転を予定しております。移転に伴う一時的な環境負荷の増加は否めませんが、現在社内ではDXの推進や5 S活動の展開など、効率化を図る活動を全社的に行っております。新しい事業所では環境活動の先端を歩む企業となるべく、この活動の実を結ばせ、環境負荷低減の一助になることを願っております。

環境経営方針	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
環境目標・計画	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
実施体制	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり

主な環境活動の紹介

	環境活動	SDGs
電力	クールビズ・ウォームビズの徹底	
	工程管理で効率よく作業を行い、ムダな電力の削減	  
	各種機械設備の定期点検で高効率な運転の維持管理	  
ガソリン	社用車の定期点検を確実にを行い、良好な燃費を維持	 
	自部署だけでなく外注業者・来客者へもエコドライブの協力依頼、パンフレットの掲示を行う	 
廃棄物	詰め替え可能な事務用品を推奨し、リユース促進	 
	納入業者に通い箱の協力依頼	 
	レンタルウエスの利用	 
水	節水の呼びかけ・掲示による励行	
	工場巡回時に水漏れがないか調査	
	水のろ過装置を使用し、機械の水交換回数を削減	

主な環境活動の紹介

環境活動		SDGs
化学物質	化学物質の少ない製品を調べる。納入業者に提案頂く	  
	パーツクリーナーの過剰使用を控える	  
グリーン調達	グリーン調達ガイドラインの周知	 
	客先の環境経営に関する情報収集と社内への伝達	 
	エコマネジメントシステム取得業者からの優先調達	 
環境に配慮した製品づくり	新規製品の小型化や部品点数の削減による資源使用量の削減	 
	社内システムの改善により効率化を図る	
	5Sの徹底で作業効率・生産性を上げる	  
	外部とのメールの署名部分にEMS推奨の文言を入れる	 
	地域清掃や環境団体への募金で社会活動	  

環境活動紹介①



再資源化物置き場に「リサイクルステーション」の看板を設置し、リサイクルへの意識向上を図っています。



社内に設置している自動販売機は、売り上げの一部を募金団体へ寄付しています。



コロナウイルス感染予防の為に自粛中



月に一度、最寄駅から会社までの通勤道路の清掃活動を行っています。自主参加ですが毎月たくさんの方が参加しています。

環境活動紹介②



敷地内で野菜を育て、募金と引き換えに配布。集まった募金は環境活動を行う団体に寄付しています。

キュウリ募金へのご協力をお願いします

エコアクション21の活動で、立体駐車場にてキュウリ等を栽培し皆様の募金と引き換えにお渡します。

集まった募金は、地域の環境団体へ全て寄付します。

皆様の善意ある募金をお願いします。



環境配慮のポスターを実際に使用する場所に貼り、啓発。
(写真は紙コップ、エアコン温度設定のポスター)



消防訓練は消防署の協力を得て、通報、放水、消火器の訓練を行います。避難訓練は毎年違う部署で実施し、防災意識を高めています。

環境活動紹介③



定期的に各部署の過剰な在庫や不要な事務用品を回収し、再度要求時に配布することで無駄なく利用しています。



納品時



回収用ドラム缶



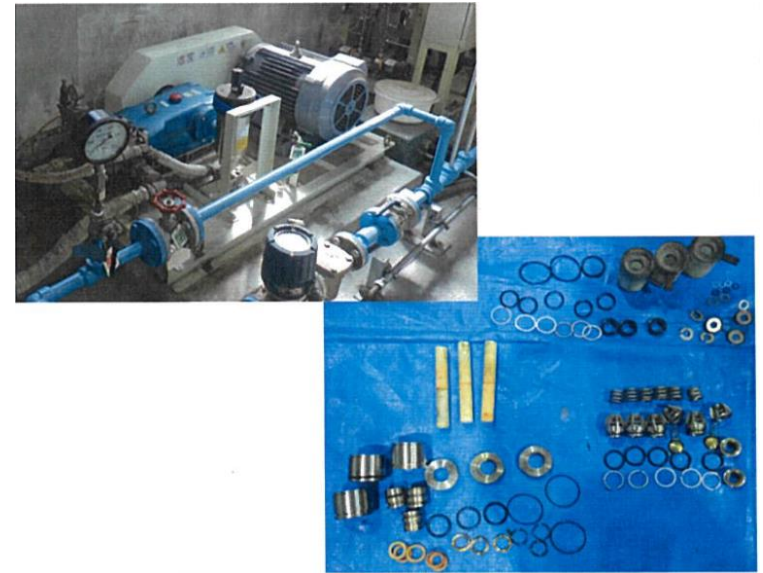
使用済ウエス

ウエスを洗濯して再利用するシステムを採用し、廃棄物の削減を図っています。



プリンターに認証システムを導入することでミスプリントを防ぎ、複数の印刷物をまとめてプリントアウトできるので効率も良くなります。

環境活動紹介④




コンプレッサーやボイラー、ポンプは定期的に分解・清掃・整備することで予防保全、劣化による効率の低下を抑えています。





株式会社 中北製作所
NAKAI SEISAKUJO CO., LTD.

 **株式会社 中北製作所**

大阪府大東市深野南町1-1

TEL 072-871-1331

FAX 072-870-1865